

今年は冷夏だろうか。南九州では、梅雨末期特有の集中豪雨による大災害の発生対処も終わらぬうちに、どうやら梅雨が明けたようだ。朔東地方も所謂エゾ梅雨か、愚図ついた気候が続き、気温も上がらず、日照も例年に比して少ないようだ。この影響が農・漁業に悪影響を及ぼし始めているのではないかと危惧している。某町長の話しによると、今ごろ獲れる筈の鮭の『時知らず』が一向に水揚げ出来ないか極端に少ないと言う。また、先日入浴したサウナでの漁業者の話でも、昆布漁がさっぱりだと言う。農作物に悪影響は出ていないのだろうか。

当地は麦秋である。先日、官用車にて部隊の訓練視察に出かけた際に、面白い事に気付いた。十勝の畑地は小麦の黄金色の穂波が風に揺れ、ジャガイモ畑には白い花(あるHPでは、薄いピンク《ヘリオトロープ》であると書いてあるが、見た目には白にしか見えない。)(男爵イモ)と、紫(メークイン)の花が緑葉に負けまいと首を伸ばしている。

ジャガイモの花の色の種類を調べてみた。白：十勝こがね、農林1号等15種、薄め赤紫系：男爵イモ、キタアカリ等12種、濃い目の赤紫系：花標津、インカレッド等9種、紫系：メークイン、インカのめざめ等8種、青紫系：ビホロ等4種。色々ある事に驚きました。

男爵イモは、上磯町当別に、明治44年(1911)、川田農業試験場を作った川田龍吉男爵が、イギリスから輸入したアイリッシュコブラー種を広めた。川田男爵が広めた芋ということで「男爵イモ」と通称されるようになったのである。何故、その種かという、川田男爵がイギリス留学中に恋をしその恋人と食べたという因縁つきのイモ(?)とか。勿論、そのような粹なことだけではなく、北海道の天候気象に合致していたことが根本的な選定要件だったとは思いますが、明治時代の貴族も同じですね。

『今は、正に麦秋である。間もなく刈り入れが始まるのかな。』と感じつつ、車窓から麦畑を眺めていたら、面白いものを発見した。畑の中に、二筋の不思議な通路らしきものが10m 或いはそれ以上の、間隔で真っ直ぐに伸びているのである。何処の麦畑も通路らしきものの間隔の違いを除けば、同じような様相を呈している。

東千歳に所要でヘリ移動する際に、十勝平野一面に広がる麦畑を上空から眺めて、新たな発見があった。地上からでは気付かなかっただけでも<sup>くだん</sup>の二筋の通路は、一筆書きで描かれているのだ。コンバインを使うのであるから当然といえば当然なのだが、・・・

考えるに、小麦の刈り入れ機械の通路だろう。間隔の差は機械の差か。聞けば、小麦の刈り入れは天候に影響されるようだ。コンバインは、非常に高価であるため、個人で買う人は少なく、殆どが共同購入のようだ。晴天の日が続くことが予期できる場合は夜を徹して機械があちらの畑、こちらの畑と動き回る事になる。限られた時間の中で、しかも麦の成長度合いをも考慮に入れての収穫だ。仕切り役の判断に収穫が左右されることとなる。一般的には、8月のお盆の前頃という。

ジャガイモの収穫には早いのだろうか、収穫は、どのようにするのだろうか。蔓が枯れて

から収穫するようだ。ハーベスターと言う、数本の爪の付いた鋤で掘り起こし、掘り起こされた芋は、人の手によって大小に選別され、夫々がコンベアで大きな回転式の籠に流れ、それが回転する事によって芋に付いた泥を落とすシステムだ。ビートも基本的には同じような要領だろうか？

● 参考：メイクイン (May Queen) 及び男爵イモ (Irish Cobbler) の特徴等

メイクイン：目が浅く剥皮し易い。煮崩れしにくく煮物に適する。食味がよく、特に貯蔵後は甘味が増す。反面薯の揃いが悪く、規格歩留りが悪い。グリコアルカロイド含量が多く、曝光による生成も多い。

男爵イモ：早生で適応性が広い。ジャガイモらしい広く好まれる食味。反面、目が深く、剥皮しづらい。剥皮褐変が極めて多い。大イモに空洞が生じ易い。

当地の特産物には他に、ナガイモがある。これの収穫も独特だ。トレンチャーという先が爪状になっている機械で、ナガイモの畝と畝の間を 150cm 位に掘り進むのが第一歩だ。後は手作業だ。真っ直ぐに引き抜かなくてはならぬ。芋が曲がらぬようにナガイモ畑は、相当深く迄掘り起こして石などを除去しなくてはならない。曲がったイモは掘り起こす時に傷ついてしまう。少しでも傷ついたものは商品価値がない、そんな世の中だ。曲がったものや傷ついたもの、泥のついたものが敬遠される世の中だ。何かが可笑しい？

最も最近では、ハーベスターを使用して、土ごと掘り起こす方法も取られているようだ。

ナガイモの収穫は、秋は 10 月中旬から 11 月上旬、春は 4 月中旬である。

このように、夫々の農作物には夫々独特の収穫法があり、それに最も適するように植えつけられている。

何時か機会があれば、秋の収穫を体験して見たいものだ。退官後の準備の為ではないので、念の為。

時ならぬ菜の花が咲いているような風景を見て一瞬我が目を疑ったのですが、よくよく確認してみると、菜の花と瓜二つの色と花弁を持っている「キガラシ」という植物である。緑肥にするようだ。

(参考：各種HP、農業関係者等の聞き取り等)